



地球暮らし

地球温暖化防止と
環境共生住宅を考える

本当に環境にいい生活とは何だろうか？

みなさんこんにちは、さつまホームの瀧川です。昨年にも増して暑い夏でしたね。残暑も厳しいようですが、私自身こういう時に風邪をひきやすいので皆さんもご自愛を。ところで、世間にひとまず浸透した感のある「エコブーム」なのですが、最近はその費用対効果など様々な観点からその是非を見直そうというコラムや著書を目にするようになりました。そこで『地球暮らし』でも今回から数回にわたり、関係者が口を閉ざす裏事情にまで踏み込んだキワドイ「エコ生活検証」に挑戦してみます。



「エコ生活」を検証する・第1回 ~ レジ袋をなくすと石油消費量が増える?! ~

エコブームに巣食う「利権」

最初に簡単な計算をご覧ください。現在「環境のために」という名目で税金から拠出される金額は、自治体だけで国民ひとり当たり年5,000円程度になるそうです。「環境のためなら…」と目をつぶってしまいそうな金額ですが、これを受け取る業者の数は約1万ですので、1社(者)平均年5000万円にもなります。税金などが自動的に入ってくる仕組みのことを「利権」と呼びますが、年5000万円はとても大きな利権と言えます。利権を与える側も利益を受けるようにできていれば、これも利権の一部です。都合の悪い事は隠してでも守ろうとする人がいたって不思議ではありません。

レジ袋は石油を消費しない!?

レジ袋が「石油ムダ使い・環境破壊の象徴」として悪者扱いされてから久しいのですが、ここにも何やら隠された何かがあるらしいのです。

石油精製施設と聞いて私たちがイメージするのは沿岸部に立ち並ぶ巨大なタンク。そして煙突からは真っ黒な煙が立ち上る光景でした。しかしそれも昔のお話で、現在煙突から出るのは無色の水蒸

気のようなガスだけです。これは、この数十年の技術の進歩により、今までは精製・利用ができなかった、原油中の「あまり上質でない部分」まで、とことん使い切ることが可能になったおかげです。そしてレジ袋は、その「今までは捨てていた部分」つまり燃やして黒い煙にしていた部分を上手に利用して作られた製品なのです。

もし仮に、世界的にレジ袋の使用を一切禁止したら何が起こるでしょうか？CO2を削減できるでしょうか？ゴミは減らせるでしょうか？石油の消費量は減るでしょうか？…答えは必ずしも「イエス」ではなさそうなのです。前述のように、レジ袋は石油の中の品質の低い部分を利用した製品です。この生産を止めたら、その分の原料は昔のように「精製工場で焼却するだけ」に戻ってしまうのだそうです。これではCO2の排出量は少しも減りません。ゴミが減るかといえば、レジ袋のような、ゴミを一時的にま



とめるための何らかの「袋」を別途買わなくてはなりません。使い捨てできるレジ袋はその用途にぴったりなのに…です。そして石油の消費量は、ガソリンや上質のプラスチックなど高付加価値の製品にされる「おいしい」部分の生産を減らさない限り変わらないばかりか、「エコバッグ」などレジ袋に代わるものをもし石油製品で作ってしまったら、却ってたくさんの石油を必要とする「逆効果」になってしまうのです。

レジ袋有料化の裏側

— 部のスーパーマーケットや、自治体の単位で増えている「レジ袋有料」の動き。もしレジ袋の削減がエコロジーに無力なら、スーパーの売り上げが増えるだけの結果になってしまいます。



環境の名の下に巨額のお金が動く時代です。私たちが国や役所から勧められ、あるいは強要されている「エコな生活」とは、本当に地球にとっていいことなのか…。私たちはそこまで確かめながら進まなくてはならない様です。

トピック

排ガスから化学材料

三菱化学や三井化学。工場から出るメタンガスやCO2を使ってベンゼンやエタノールを作る試み。実験室レベルでは成功しているがコスト高の克服が課題。06年から実験プラントが稼働中。実用化できれば「究極の環境技術」に。

ホンダ、電動二輪車を開発

ホンダは電気のみで走る電動二輪車を開発し、2011年にも発売する。排ガスを全く出さず、同じエネルギー費用であればガソリン車の7倍以上の距離を走行可能。事業者用のほか、一般ユーザー向けも開発し、将来は海外販売も検討。ヤマハ発動機も10年以上に投入する計画。

情報リンク

『偽善エコロジー』武田邦彦著 冬幻舎新書

現代の「エコ生活」の有効性と、行政や企業活動の裏事情まで含めた実態をデータに基づいて検証しています。今回の「地球暮らし」はこの本を参考に執筆しています。

お知らせ バックナンバーをプレゼント

多数のお申込みありがとうございます。引き続き『地球暮らし』全バックナンバープレゼント実施中です。右記のEメールかFAXまでお申込み下さい。

編集後記 もっともっと知らなければ…

もう3年近く、この「地球暮らし」を担当させていただいていますが、この「偽善エコロジー」はかなりショックでした。「本当なのか？」と今も少し思っているほどです。皆様に僣越ながら「エコ」を説くからには、聞きたくない、信じたくないような話をもっと知らなければ…と思いました。

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com

FAX : 06 - 6855 - 7700

郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-12-11

（株）さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます